

今日のシライ中

本の翼

白井中学校図書室から VOL.34

♪～今年もクリスマスがやってきた！～♪クリスマスを題材とした文学作品はたくさんありますが、その中から2冊紹介します。

『世界で一番の贈りもの』 マイケル・モーパーゴ

「いとしいコニーへ私は今、とても幸せな気分で、この手紙を書いている。すばらしいことが起きたんだ。それを早くきみに知らせたくて、たまらない。」…恋人への一途なラブレター。ところがこの手紙は、第一次大戦中の最前線で書かれたものなのです。向き合うドイツ軍と、イギリス軍。一触即発の空気に凍えるクリスマスの朝。ドイツ軍の塹壕から耳を疑う声が響きます。“メリー・クリスマス！メリー・クリスマス！イギリス軍さん！クリスマスおめでとう！”最初は畏かと思えるイギリス軍。ところが、次第に互いの距離は縮み、ついには敵も味方もなく、楽しいクリスマスが戦場で繰り広げられたのです。…この手紙は、「いとしいコニー。来年のクリスマスには、この戦争も、ただの遠い思い出になっていることだろう。…きみのもとに帰れる日が、もうすぐ来る。…愛をこめて、ジムより」と終わります。さあ、この手紙が再び恋人の元に戻った数奇な運命、クリスマスの奇跡を一緒にたどってみませんか？ちなみに、この物語は実話をもとにしています。「戦場のオーケストラ」という素敵な映画もあります。よかったら、見てください。



『クリスマス・キャロル』 ディケンズ

クリスマスのお話としては、あまりにも有名なこの作品。映画や、舞台に何度もなっている作品です。強欲な主人公スクルージ。共同経営者だったマーレーが死んでも、亡霊になって現れても、少しも動じません。もちろん、お金のかかるクリスマスなんて、もったいなか！そんな彼の前に、精霊によって繰り広げられる数々の場面。～貧しい一家。大家族には小さすぎるプディング。「みんなに、神さまの祝福がありますように。」ティム坊やが、一番最後にいった。いつまでもそばにおいておきたいけれど、天に召されてしまうのではないかと…父親は、ティム坊やのやさしい小さな手をにぎりしめていた。～生まれて初めてスクルージは、“未来”の精霊に祈ります。「あの子は死なせないで、いってください。」…さあ、スクルージは、ティム坊やは、どうなっていくのでしょうか？この作品を書いているとき、ディケンズは作中の人物といっしょに泣き、笑い、物語のことを考えながら、夜のロンドンを何十キロも歩きまわったということです。「メリー・クリスマス」という言葉や、贈り物の慣習のきっかけとなった作品だともいわれています。ぜひ読んでみてください。

